

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月13日
【四半期会計期間】	第41期第2四半期（自平成27年7月1日至平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社アスモ
【英訳名】	ASMO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長井 尊
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル
【電話番号】	東京03(6911)0550
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室室長 岡田 秀樹
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル
【電話番号】	東京03(6911)0550
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室室長 岡田 秀樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第2四半期連結 累計期間	第41期 第2四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (千円)	8,373,844	9,015,563	16,919,065
経常利益 (千円)	511,843	378,469	903,547
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	236,588	290,139	478,943
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	306,098	289,049	653,226
純資産額 (千円)	3,384,681	3,878,679	3,729,864
総資産額 (千円)	4,931,208	5,760,814	5,474,895
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	1.69	2.07	3.42
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.2	64.9	65.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	91,517	452,148	702,917
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	118,140	292,581	302,524
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	4,091	124,295	8,564
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,489,890	1,972,280	1,941,074

回次	第40期 第2四半期連結 会計期間	第41期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.69	1.45

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和政策等により企業業績の向上、雇用情勢の改善の傾向がみられ、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、消費税増税による個人消費への影響の長期化、円安による物価上昇もあり先行きはなお不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社は前期に本社機能の強化と業務の一層の効率化を図るとともに、グループ間の連携を深め、収益力のさらなる向上を目的として、大阪市に所在していた本社を当社グループの収益の柱である株式会社アスモフードサービス及び株式会社アスモ介護サービスが拠点を置く東京都新宿区に移転するなど、事業規模の拡大と経営基盤の強化を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高9,015百万円（前年同四半期比 7.7%増）、営業利益386百万円（前年同四半期比 23.6%減）、経常利益378百万円（前年同四半期比 26.1%減）となり、当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は、290百万円（前年同四半期比 22.6%増）となりました。

主なセグメントごとの業績は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	保険商品の販売
	(ASMO CATERING(TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、6月以降の小幅な円安状況からコストアップとなり、更に外貨高が依然として続いたことにより利益の確保においては厳しい状況が続きました。また、一部商品においては需給バランスの崩れによる国内価格変動の著しいものがあり、販売高はある程度までは回復いたしました。利益においては依然として昨年の実績を下回る結果となりました。

しかし、為替の動きが小幅となり、価格が安定し始めたことにより売価もようやく適正価格として定着し、販売も安定するようになってまいりました。国内では牛肉ブームが到来し、当社としては安価で高品質なメキシコ産牛肉を中心に販売することで低価格商品における顧客満足度を向上させ、また国産牛を使った加工品の販売等において付加価値のついた高品質の商品も生産し、高齢者向け商品や外食店向けの加工商品の開発を行い、国内のニーズに合った様々な販売方法に対応することで販路を拡大すべく取り組んでおります。特に関連会社向けの提案を強化し、シナジー効果を上げてグループ全体の利益に貢献してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,442百万円（前年同四半期比 0.4%減）、セグメント損失（営業損失）は、19百万円（前年同四半期はセグメント利益9百万円）となりました。

アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、高齢者介護施設給食受託が順調に増加しており、売上高、営業利益ともに堅調な推移をみせております。今後におきましても、引き続き堅実に増収増益を維持できるよう、基盤の強化に努めてまいります。

また、商材の調達やメニュー開発、様々なイベント及び行事において、従来培った食のノウハウを活用することで、提供商品（給食）における付加価値を創出し他社との差別化を図り、クオリティの向上に取り組んでまいります。

現在、メニューに関しましては行事食・郷土料理・季節のメニュー等を、イベント及び行事では洋菓子講習会・料理コンテスト・出張イベント（パティシエ、マグロ解体ショー、握り寿司、蕎麦打ち等）を実施しております。

今後におきましても、より積極的に多くの分野に対して給食の提供を働きかけることで、様々なニーズに対応してまいります。

当第2四半期連結会計期間末時点における受託施設数（労務委託等の部分委託を含む）は、292施設（前年同四半期末時点は275施設）となっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,654百万円（前年同四半期比 4.5%増）、セグメント利益（営業利益）は、192百万円（前年同四半期は5百万円）となりました。

アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅支援事業所および有料老人ホーム運営事業を営んでおり、当第2四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所38事業所（前年同四半期末時点は32事業所）、居宅支援事業所12事業所（前年同四半期末時点は、12事業所）となり、支援させていただいておりますご契約者様は1,673名（前年同四半期末時点は、1,545名）となりました。

また、8月には3施設目の自社運営有料老人ホームを鳩ヶ谷に開設いたしました。今後もシニアマーケットへの関わりをより広く深め、企業価値の向上に努めてまいります。

さらに、介護人材育成を最重要課題の一つと認識し注力実践していくことで、より良い人材の確保と定着率向上に努め、介護サービスの質の向上を図ってまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,366百万円（前年同四半期比 14.2%増）、セグメント利益（営業利益）は、251百万円（前年同四半期比 39.6%減）となりました。

ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、香港経済が中国経済の減速による中国人観光客の減少などから不安定な状況下にあることを受けて、比較的単価の低いフードコート店舗「匠工房秀吉」「神戸 北の坂」が節約志向に呼応し堅調な業績となった一方、比較的高い価格帯である「日本料理 今助」「山頭火」「銀座 蔵人」などの店舗は苦戦しております。これは多角的に業種態を運営することで浮き沈みの激しい香港において景気の良い時も悪い時も安定した収益確保に努める当社方針によるものであります。

また、7月度には香港でも有数の繁華街であるモンコック地区に「うどん御膳 今助」をオープンいたしました。同店舗は地下鉄駅の真上にある中規模ショッピングセンター内という好立地であり、着実に固定客を増やしていくことで当社の収益を支える旗艦店とすべく運営してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,184百万円（前年同四半期比 18.9%増）、セグメント利益（営業利益）は、24百万円（前年同四半期比 79.4%増）となりました。

その他の事業

a. サーバントラスト信託株式会社

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は、管理型信託事業を営んでおり、「特定贈与信託」「ペット飼育費保全信託」「老い支度サポート信託（遺言代用信託を含む）」「葬儀費用安心お預かりサービス信託」などの個人向けの信託商品のほか、「葬儀費用管理信託」「顧客分別金管理信託」「不動産証券化信託」「エスクロー信託」などの法人向けの信託商品の販売に努めました。従前からの継続的な営業活動による成果が着実に積み上がり、利益を計上できる状況に至りました。引き続き、積極的な営業活動を行っていくとともに、グループ主要事業である介護事業とのシナジーを図りながら、新規契約の獲得ならびに売上増加に努めてまいります。

b. アスモ少額短期保険株式会社

その他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を営んでおり、従来の「生命定期保険」「入院保障付生命定期保険」「無選択型生命定期保険」に加え、有料老人ホーム入居者向けの保険「転ばぬ先の杖」（高齢者施設入居者家財保険）の販売を開始いたしました。この保険は施設の個室に持ち込んだ入居者の家財の補償と入居者のケガによる入院保障がセットになった少額短期保険ならではのユニークな商品です。有料老人ホームを代理店化し、入居者様に当商品を案内することでより一層の安心を提供すると同時に、保険の販売手数料が受け取れることから、有料老人ホーム運営会社の事業収支の向上にも役立つ商品となっています。現在、多くの有料老人ホーム運営会社に提案を行っており、第3四半期以降、従来の生命保険商品に加え、当保険商品からの保険料収入が見込める予定です。また、LGBT（性的少数者）の方への対応方針においても、保険業界の先頭を走っており、多くのメディアでも紹介されたことから、会社名の露出機会も増え、知名度及び企業イメージの向上に役立っています。

c. ASMO CATERING(TAIWAN)COMPANY LIMITED

その他セグメントに含めておりますASMO CATERING(TAIWAN)COMPANY LIMITEDは、昨年4月に台湾市内にオープンした「今助」が好調に推移しており、安定した収益を上げるまでに至っております。

今後の出店に関しましては、特に台北付近のショッピングセンター内にあるフードコートのデベロッパー各社と断続的に出店交渉を行っております。デベロッパーの中には香港の「匠工房 秀吉」や「神戸 北の坂」などについて認知している方もおり、既に海外での運営実績があるという強みも活かし、今後も収益の確実性が高い立地にしぼり出店交渉を行ってまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、365百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益(営業利益)は、10百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,972百万円となり、前連結会計年度末より31百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、452百万円（前年同四半期は91百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益367百万円、及び減価償却費86百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、292百万円（前年同四半期は118百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出92百万円、建設協力金の支払による支出65百万円、及び貸付けによる支出76百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、124百万円（前年同四半期は4百万円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額119百万円等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	600,000,000
計	600,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	151,451,750	151,451,750	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	151,451,750	151,451,750	-	-

(注) 発行済株式数のうち4,610千株は、現物出資(貸付金債権299,650千円)によるものであります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	151,451	-	2,323,272	-	-

(6)【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社Persons Bridge	東京都新宿区西新宿二丁目4-1 新宿 NSビル25階	82,000	54.14
株式会社ベストライフ	東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿 住友ビルディング39階	15,284	10.09
長井 博實	東京都杉並区	10,757	7.10
福山 良二	千葉県千葉市中央区	1,348	0.89
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2-10	695	0.45
武田 昌姫	神奈川県横浜市神奈川区	411	0.27
藤井 俊希	神奈川県川崎市中原区	400	0.26
小西 静馬	京都府京都市伏見区	355	0.23
石原 幸久	兵庫県揖保郡太子町	330	0.21
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6-1	319	0.21
計	-	111,899	73.88

(注)上記のほか、自己株式が11,243千株あります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,243,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 140,189,000	140,189	-
単元未満株式	普通株式 19,750	-	-
発行済株式総数	151,451,750	-	-
総株主の議決権	-	140,189	-

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に対 する所有株式数の割 合(%)
株式会社アスモ	東京都新宿区西新宿二丁目 4番1号 新宿NSビル	11,243,000	-	11,243,000	7.42
計	-	11,243,000	-	11,243,000	7.42

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について清和監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,941,074	1,972,280
受取手形及び売掛金	1,754,343	1,857,803
商品	298,387	305,194
貯蔵品	13,707	13,329
その他	463,853	468,388
貸倒引当金	1,794	7,909
流動資産合計	4,469,571	4,609,086
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	352,491	350,506
有形固定資産合計	352,491	350,506
無形固定資産		
のれん	74,486	64,555
その他	2,836	16,030
無形固定資産合計	77,323	80,585
投資その他の資産		
その他	890,194	1,039,573
貸倒引当金	314,684	318,939
投資その他の資産合計	575,509	720,634
固定資産合計	1,005,324	1,151,727
資産合計	5,474,895	5,760,814
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	487,368	501,090
未払金	561,011	606,547
未払法人税等	-	108,837
賞与引当金	161,224	221,267
その他	435,690	332,383
流動負債合計	1,645,294	1,770,125
固定負債		
退職給付に係る負債	90,346	98,279
その他	9,390	13,729
固定負債合計	99,736	112,008
負債合計	1,745,031	1,882,134

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	1,147,907	1,297,838
自己株式	42,382	42,408
株主資本合計	3,428,797	3,578,702
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	269	87
為替換算調整勘定	156,694	154,433
退職給付に係る調整累計額	7,285	3,642
その他の包括利益累計額合計	163,710	158,164
非支配株主持分	137,356	141,813
純資産合計	3,729,864	3,878,679
負債純資産合計	5,474,895	5,760,814

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
売上高	8,373,844	9,015,563
売上原価	6,118,818	6,869,184
売上総利益	2,255,025	2,146,379
返品調整引当金戻入額	6,792	-
差引売上総利益	2,261,818	2,146,379
販売費及び一般管理費	1,756,346	1,760,205
営業利益	505,471	386,173
営業外収益		
受取利息	473	1,926
為替差益	5,521	-
助成金収入	3,425	4,325
その他	1,183	1,550
営業外収益合計	10,603	7,802
営業外費用		
支払利息	179	86
貸倒引当金繰入額	-	10,259
為替差損	-	4,897
その他	4,051	262
営業外費用合計	4,231	15,506
経常利益	511,843	378,469
特別利益		
固定資産売却益	-	18
特別利益合計	-	18
特別損失		
減損損失	158,339	-
固定資産除却損	181	4,930
和解金	-	5,500
その他	-	594
特別損失合計	158,521	11,025
税金等調整前四半期純利益	353,322	367,462
法人税、住民税及び事業税	59,698	75,910
法人税等調整額	53,897	3,663
法人税等合計	113,596	72,246
四半期純利益	239,726	295,215
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,138	5,075
親会社株主に帰属する四半期純利益	236,588	290,139

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	239,726	295,215
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	141	357
為替換算調整勘定	32,090	2,880
退職給付に係る調整額	34,422	3,642
その他の包括利益合計	66,371	6,165
四半期包括利益	306,098	289,049
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,060	284,593
非支配株主に係る四半期包括利益	10,037	4,456

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	353,322	367,462
減価償却費	66,917	86,111
のれん償却額	10,164	9,931
減損損失	158,339	-
返品調整引当金の増減額(は減少)	6,792	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,454	10,369
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	41,950	4,290
賞与引当金の増減額(は減少)	23,833	60,390
受取利息及び受取配当金	473	1,926
支払利息	179	86
為替差損益(は益)	34	1,225
有形固定資産売却損益(は益)	-	18
有形固定資産除却損	181	4,930
和解金	-	5,500
売上債権の増減額(は増加)	84,732	53,850
その他の資産の増減額(は増加)	50,517	40,171
たな卸資産の増減額(は増加)	34,743	6,299
仕入債務の増減額(は減少)	46,326	14,248
その他の負債の増減額(は減少)	143,121	139,034
未払消費税等の増減額(は減少)	82,824	50,306
その他	1,100	6
小計	293,420	353,278
利息及び配当金の受取額	79	199
利息の支払額	179	86
法人税等の支払額	207,378	13,318
法人税等の還付額	5,575	112,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,517	452,148
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	159,625	92,189
有形固定資産の売却による収入	172,878	18
無形固定資産の取得による支出	-	4,000
差入保証金の差入による支出	32,338	62,973
差入保証金の回収による収入	1,101	3,731
関係会社株式の取得による支出	1,050	-
貸付けによる支出	200	76,218
貸付金の回収による収入	759	1,378
建設協力金の支払による支出	100,000	65,000
建設協力金の回収による収入	333	2,669
投資活動によるキャッシュ・フロー	118,140	292,581
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	2,777	3,396
リース債務の返済による支出	1,282	1,503
自己株式の取得による支出	32	26
配当金の支払額	-	119,368
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,091	124,295
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,418	4,064
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	19,295	31,206
現金及び現金同等物の期首残高	1,509,186	1,941,074
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,489,890	1,972,280

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 2項(4)、連結会計基準第44 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
従業員給料及び手当	511,188千円	549,551千円
賞与引当金繰入額	139,086	55,517
退職給付費用	1,576	198
貸倒引当金繰入額	2,631	135

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	1,489,890千円	1,972,280千円
現金及び現金同等物	1,489,890	1,972,280

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当に関する事項
配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	140,208	1	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注1)
	アスモ 事業	アスモレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	ASMO CATERING (HK)事業	計	
売上高							
外部顧客への売上高	3,706	1,448,577	3,496,335	2,072,189	996,401	8,017,210	356,633
セグメント間の内部 売上高又は振替高	238,990	26,795	11,786	-	-	277,572	-
計	242,696	1,475,373	3,508,121	2,072,189	996,401	8,294,782	356,633
セグメント利益又は損 失()	52,314	9,422	5,640	417,270	13,472	498,120	8,480

	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	8,373,844	-	8,373,844
セグメント間の内部 売上高又は振替高	277,572	277,572	-
計	8,651,416	277,572	8,373,844
セグメント利益又は損 失()	489,639	15,831	505,471

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	498,120
「その他」の区分の利益又は損失()	8,480
セグメント間取引消去	13,200
表示組替による調整額	2,631
四半期連結損益計算書の営業利益	505,471

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注1)
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	ASMO CATERING (HK)事業	計	
売上高							
外部顧客への売上高	2,550	1,442,232	3,654,764	2,366,502	1,184,350	8,650,400	365,163
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	27,692	40,248	-	-	67,941	-
計	2,550	1,469,925	3,695,013	2,366,502	1,184,350	8,718,341	365,163
セグメント利益又は損 失()	73,039	19,326	192,237	251,904	24,174	375,950	10,656

	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	9,015,563	-	9,015,563
セグメント間の内部 売上高又は振替高	67,941	67,941	-
計	9,083,505	67,941	9,015,563
セグメント利益又は損 失()	386,606	432	386,173

（注1）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	375,950
「その他」の区分の利益又は損失()	10,656
セグメント間取引消去	432
四半期連結損益計算書の営業利益	386,173

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円69銭	2円07銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	236,588	290,139
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(千円)	236,588	290,139
普通株式の期中平均株式数(千株)	140,208	140,208
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

株式会社アスモ
取締役会 御中

清 和 監 査 法 人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	坂井 浩史	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	高橋 潔弘	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスモの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスモ及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しています。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。